

事業の背景・目的

堀川の水生生物として、堀川ダム湖の上流域にミズスマシ（環境省絶滅危惧Ⅱ類）、ダム堤体直下流域にはモノアラガイ（環境省準絶滅危惧）が多産する。堀川ダム湖内にウチダザリガニが生息する以前は、チャイロシマチビゲンゴロウが多産していたが、ウチダザリガニの個体数が増加した現在ではダム湖内から本種は姿を消し、ダム堤体直下の流域にわずかに残存するのみである。ウチダザリガニの個体数密度を低減しないと、ダム湖内だけでなく、現在はまだ高密度ではない上下流域に分布が拡大することにより、これら希少種（ミズスマシやゲンゴロウ類、特に幼虫）は、生息環境の改変や捕食を通して絶滅してしまう可能性が高いと考えられ、本事業を実施しそれらの保全をしていきたい。

事業の内容

防除事業

- ・堀川ダム上流部でカニかごの中に誘引物を入れ数時間から数日後回収する
- ・捕獲場所、雌雄の数、重量等を計測する
- ・土嚢袋に詰め、焼却施設にて適正に処分する
- ・多くの個体数を防除できるよう業務委託を行う
- ・ダム下流域へカニかごを設置し分布調査を行う

得られた成果

昨年度防除実績9,572匹に対して21,121匹の防除結果となった。昨年度比約2.2倍の個体数を防除したものの、個体数低減までは至っていない状況となっている。

福島大学教授との月1回の防除日に助言を得てウチダザリガニの好む環境に合わせカニかごの設置箇所を変更し、より効果的な防除作業を行った。

分布調査を8月～11月にかけて月1回計4回実施した。ダム堤体直下流域から約1km、約2km、約4km下流に設置したが2km下流地点にある赤坂ダムへの水路内でウチダザリガニの個体が確認された。赤坂ダム内にもカニかごを設置したが、ここでは個体は確認されなかった。

個体数の増加や分布域の拡大を防ぐためにも継続的に防除を実施していくことが重要であると考えます。

来年度以降も活動ができるよう参加団体等へ協力要請していきたい。また、今年度実施できなかった先進地視察を行い、効率的な防除方法や取組体制等を学んでいきたい。